

**授業概要**

本講義は、近代日本における民衆と政治の関わりに焦点を当て、民衆の動向が政治にどのような影響を与えたのかを検証することを目的とする。講義では、大正末に普通選挙制度の実現を通じて民衆の意向が反映される政党政治のシステムが確立されたにもかかわらず、何故に政党政治はやがて民衆からの信頼を喪失するなかで挫折し、翼賛体制のなかに取り込まれていくことになったのかを考えていきたい。

なお、適宜ビデオ教材も使用しつつ、授業内容への理解を深めていくこととする。

**授業計画**

第 1 回	授業の進め方の説明
第 2 回	日露戦争後における民衆の台頭
第 3 回	大正期の民衆運動
第 4 回	若槻礼次郎内閣と「劇場型政治」の開始
第 5 回	田中義一内閣と天皇シンボルの肥大化
第 6 回	浜口雄幸内閣と統帥権干犯問題
第 7 回	満州事変とマスメディアの変貌
第 8 回	犬養毅内閣の崩壊と政党政治の終焉
第 9 回	五・一五事件裁判への反応
第 10 回	国際連盟脱退と世論
第 11 回	帝人事件
第 12 回	天皇機関説事件
第 13 回	日中戦争と近衛文麿の人気
第 14 回	近衛新体制
第 15 回	日米開戦へ
第 16 回	筆記試験

**到達目標**

- ・近代日本における民衆の政治的台頭の流れを把握することができる。
- ・大正～昭和戦前期の民衆政治の問題点を理解することができる。
- ・政治と世論の関わりについて考えることができる。

**履修上の注意**

- (1) 歴史に興味のある学生を対象としていることを特に強調しておきたい。
- (2) 「日本史概説」を履修していることが望ましい。

**予習・復習**

- (1) 授業で取り上げるテキストの箇所は、授業内容を理解しやすくするためにも、毎回必ず事前に読むなどの予習を徹底すること。
- (2) 授業の理解度をチェックするための小テストを適宜実施するので、テキストやノートの読み返しなどの復習を心がけること。

**評価方法**

学期末試験〔論述形式〕70%と小テスト 30%の合計点で成績評価を行う。

**テキスト**

- ・教科書名：戦前日本のポピュリズム
- ・著者名：筒井清忠
- ・出版社名：中公新書
- ・出版年 (ISBN)：2018年 (978-4-12-102471-8)